

# オージーの家族

P9のアンケートによるオーストラリア人家族のコミュニケーションに焦点を当てて検証し、オーストラリアでの「家族」との関り方の工夫を編集部から提案します。

## オージーは家族とよくコミュニケーションを取る!?

オーストラリア人の家族愛は、今回のアンケート結果にも顕著に表れました。週1回以上の連絡は当たり前、離れて暮らしていても家族と頻りに食事や買い物に行きます。これには、オーストラリアが移民大国①であることが大きく関わっているようです。文化の多様性を認識し、受け入れ、尊重しているオーストラリアは移民が社会や経済に深く関わっている世界でも稀にみる国です。大多数のオーストラリア人は、過去2世紀の間に様々な国からやってきた移民またはその子孫たちです。そのため世代が浅く、移民一世②の数も多くなっています。地理的に近くにいる親族が少ないからこそ、家族を大事にすることへと繋がっているのでしょう。



### ①移民大国

2009年までは、英国からの移民が最多でしたが、近年、インドからの移民が急増し、2012年度にはインド、中国、英国の順に変化しています。

出典：Australian Bureau of Statistics

### ②移民一世

2006年の調査では、人口の約40%以上の両親、もしくはどちらかが海外生まれで、また人口の22%は海外出身者でした。

出典：Australian Bureau of Statistics

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

### 13 ネット環境を整える

離れているからこそ、連絡は頻りに。そのためには、ネット環境が重要です。ポケットWi-Fiの購入や携帯プランの見直しなどで、ネット環境を整えて、連絡を取りましょう。

### 14 感謝の気持ちを手紙やプレゼントで伝える

手紙やプレゼントで気持ちを伝えてみるのはいかがでしょうか。贈り物をするだけで気持ちが伝わるはず。大事なのは何を贈るかではなく、贈りたいという気持ちです。

## オージーの門出は早い!?

近年日本では、成人をした後も両親と同居①する若者が増加していると言われています。「実家暮らしのほうが経済的に楽」「実家なら家事をしなくても良い」など、理由には様々あるようですが、そんな彼らを社会問題視する声も上がっています。パラサイト・シングル②なる言葉が生み出されたことで、徐々にその認知度も高まっています。多くの国で、成人後はすぐに親元を離れ、ひとりで生活をするべきという風潮が強くなります。そのため、それらの国では親元を離れる際の経済的な負担を軽減する手段の一つとして、恋人との同棲や友人とのシェアハウスなどの生活スタイルが確立されました。オーストラリアもその例に漏れず、成人後に親元を離れる人数の割合は、日本よりも高くなっています。



### ①同居

日本国内の調査によると、2012年の9月時点で、20歳から34歳の人口、約2,116万人のうち48.9%にあたる約1,035万人が親と同居しています。また、オーストラリアの2006年の調査では、20歳から34歳の人口のうち約23%が親と同居していることが分かりました。日本では2人に1人、オーストラリアでは4人に1人の20歳から34歳の人々が親と同居していることになり、倍の差があることが分かります。

出典：日本国総務省統計局、Australian Bureau of Statistics

### ②パラサイト・シングル

「パラサイト・シングル」とは、学卒後もなお、親と同居し基礎的な生活条件を親に依存している者のことを言います。この造語は、1999年に、当時東京学芸大学助教授であった山田昌弘氏によって提唱されました。

出典：日本国総務省統計局

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

読者の皆さんの中には、オーストラリア・パースを自らの新たな門出の地として選んだ人もいらっしゃると思います。日本を離れて、当地で新たな生活を送っている人がほとんどだと思いますが、日本と同じ“門出”を行なうだけでは、オーストラリアを新天地とした意味が薄れてしまいます。オーストラリアでの「生活」を満喫し、「余暇」を十二分に楽しみ、「仕事」も成功させ、「家族」を思いやる。それらができて初めてパースならではの“門出”を充実させたことになるでしょう。